

# 5 年

## I 整数と小数 (教科書:p.16~22 時期:4 月 配時:3 時間)

### [単元の目標]

整数や小数を 10 倍、100 倍、1000 倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$  にしたときの小数点の移動の仕方を理解するとともに、整数と小数が同じ十進位取り記数法で表されていることの理解を一層深める。

**知** 整数や小数を 10 倍、100 倍、1000 倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$  にしたときの小数点の移動の仕方を理解する。また、どんな整数や小数でも、0 から 9 までの 10 個の数字と小数点を用いて表せることを理解し、いろいろな大きさの数を表すことができる。

**考** 整数と小数を 10 倍、100 倍、1000 倍、 $1/10$ 、 $1/100$ 、 $1/1000$  にしたときの数の大きさを、小数点の移動の仕方に着目して考えたり、数の表し方の仕組みに着目して、整数と小数を統合的に捉えたりすることができる。

**主** 整数と小数が同じ十進位取り記数法で表されていることやそのよさに気づく。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I 整数と小数 (教 p.16~20)	1	<p>[アプローチ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スカイツリーの写真をもとに整数や小数を 100 倍したり <math>1/100</math> にしたりして、位の変わり方を振り返る。</li> <li>・ 整数や小数を 10 倍、100 倍、1000 倍すると、小数点がそれぞれ右へ 1 桁、2 桁、3 桁移り、<math>1/10</math>、<math>1/100</math>、<math>1/1000</math> にすると、左に 1 桁、2 桁、3 桁移ることを理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 整数や小数を 10 倍、100 倍、1000 倍、<math>1/10</math>、<math>1/100</math>、<math>1/1000</math> にしたときの小数点の移動の仕方を理解している。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小数も整数と同じように、どんな大きさの数でも 0 から 9 までの 10 個の数字と小数点を使って表せることが分かる。</li> <li>・ 0 の有用性を知り、数への興味・関心を高める。</li> </ul>	<p><b>考</b> 数の表し方の仕組みに着目し、整数と小数を統合的に捉えている。</p> <p><b>主</b> 整数と小数が同じ十進位取り記数法で表されていることやそのよさに気づいている。</p>
*0 という数 (教 p.20)			
たしかめ問題 (教 p.21~22)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 整数や小数を 10 倍や <math>1/10</math> などにしたときの小数点の移動の仕方や、十進位取り記数法の仕組みを理解している。</p> <p><b>考</b> 数の表し方の仕組みに着目し、</p>

			<p>整数と小数を統合的に捉えている。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>
--	--	--	---

復習 (教 p.23)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-
----------------	---	----------------------------	---

\*算数たまたばこ

## 2 図形の角の大きさ (教科書:p.24~37 時期:4 月 配時:6 時間)

### 〔単元の目標〕

三角形の内角の和について理解し、それを活用して、四角形や多角形の内角の和を求めることができる。

**知** 三角形、四角形の内角の和について理解し、それを用いて、未知の角度を求めることができる。

**考** 三角形の内角の和の性質を帰納的に見いだしたり、四角形や多角形の内角の和の性質を演繹的に説明したりすることができる。

**主** 内角の和のきまりについて、四角形、五角形、……と学習をひろげようとしたり、四角形などの内角の和を演繹的に導いたことを振り返って、そのよさに気づき、五角形などの学習に生かそうとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 三角形、四角形の角 (教 p.24~31)	1	〔アプローチ〕	<b>知</b> 三角形の内角の和は $180^\circ$ であることを理解し、未知の角の大きさを求めることができる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角定規でつくった三角形の角の大きさについて、共通していることを考え、三角形の内角の和にきまりがあるのか見通しをもつ。</li> <li>三角形の3つの角の大きさについて、和が <math>180^\circ</math> になることに興味をもち、角を切ったり、折ったりすることで、どんな三角形でも <math>180^\circ</math> になることを一般化する。</li> </ul>	<b>考</b> いくつかの三角形の内角を調べて、三角形の内角の和は $180^\circ$ になることを帰納的に見いだしている。 <b>主</b> 三角形の内角の和の学習をもとに、四角形の内角の和についてもきまりがあるのか、問題を見いだしている。
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角形の内角の和が <math>180^\circ</math> であることをもとに、どんな四角形でも内角の和が <math>360^\circ</math> であることを説明する。</li> </ul>	<b>知</b> 四角形の内角の和は、 $360^\circ$ であることを理解し、未知の角の大きさを求めることができる。 <b>考</b> 四角形をいくつかの三角形に分けて、内角の和が $360^\circ$ であることを演繹的に説明している。 <b>主</b> 四角形の内角の和の多様な求め方について、それぞれの考えのよさを認めたり、考えを関連付けたりしながら話し合っている。
2 多角形の角 (教 p.32~33)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「五角形」、「六角形」、「多角形」の用語とそれらの意味を理解し、三角形の内角の和を用いて、多角形の内角の和を求める。</li> </ul>	<b>考</b> 多角形の内角の和について、三角形や四角形の内角の和をもとに考え、説明している。 <b>主</b> 四角形の内角の和の求め方を振り返り、多角形の内角の和の

			求め方にも生かそうとしている。
* 角の大きさの和を まとめよう (教 p.34)	-	* 多角形の内角の和の求め方を辺の数や多角形の中にできる三角形と関連付けて考え、式で表現できる。	<b>考</b> 多角形の内角の和の求め方を、辺の数や多角形の中にできる三角形に着目して考え、式に表し説明している。
3 しきつめ (教 p.35)	5	・ 合同な三角形や四角形は敷き詰められることを、操作を通して理解する。	<b>知</b> 合同な三角形や四角形は敷き詰められることを理解している。 <b>主</b> 図形の敷き詰めについて、平面のひろがりや模様の美しさに気づいている。
たしかめ問題 (教 p.36～37)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 三角形、四角形の内角の和を用いて、未知の角の大きさを求めることができる。 <b>考</b> 図と式を関連付けて、多角形の角の大きさの和の求め方を説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
ふくろう先生の なるほど算数教室Ⅰ (教 p.38～39)	-	・ 様々な敷き詰め模様を観察したり、つくったりすることを通して、図形に対する見方を豊かにし、興味・関心を高める。	<b>主</b> 敷き詰め模様の観察や構成に主体的に取り組んでいる。

\*算数たまたばこ

### 3 2つの量の変わり方 (教科書:p.40~42 時期:4 月 配時:2 時間)

#### 〔単元の目標〕

ともなって変わる2つの数量の関係を表に表して考察し、比例の特徴を見だし、比例かどうかを判断することができる。

**知** 簡単な場合についての比例関係を理解し、ともなって変わる2つの数量の関係が比例かどうか判別したり、一方の量からもう一方の量を求めたりすることができる。

**考** 2つの数量の関係を表に整理し、対応や変化の特徴を見だし、説明することができる。

**主** 数量の関係を表や式を用いて考察することや、比例の式を用いて数量を求めることのよさに気づき、学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I 2つの量の変わり方 (教 p.40~42)	1	・ 比例関係にある2つの数量の変化の様子を表に整理して特徴を見だし、「比例」の定義を理解する。	<b>知</b> 「比例」の用語とその定義、性質について理解している。 <b>考</b> 2つの数量の関係を表に整理し、対応や変化の特徴を見だし、説明している。
	2	・ 表をもとに比例かどうかを考え、2つの数量の関係を数直線図に表す。	<b>知</b> ともなって変わる2つの数量の関係が比例かどうか判断し、比例の関係を数直線図に表すことができる。 <b>主</b> 表や式を用いて数量の関係を考察したことを振り返り、それを生かして、関係を数直線図に表そうとしている。

## 4 小数のかけ算 (教科書:p.43~56 時期:4~5 月 配時:12 時間)

### 〔単元の目標〕

乗法の意味を拡張し、乗数が小数の場合でも乗法が用いられることを理解し、小数の乗法の計算の仕方を考えたり、筆算で計算したりすることができる。

**知** 小数の乗法の意味や計算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。また、積と被乗数の大小関係や小数の乗法の計算法則などについて理解する。

**考** 数量の関係に着目し、整数をかける乗法をもとに、小数の乗法の意味や計算の仕方について考え、説明することができる。

**主** 小数の乗法の意味や計算の仕方について、既習の計算や図を用いて考えようとしたり、桁数の多い計算などについて考えようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 整数×小数 (教 p.43~48)	1	・ 乗数が帯小数(1より大きい小数)の場合でも乗法の式に表すことができることを、乗数が整数の場合をもとに考えたり、数直線図を用いたりして理解する。	<b>知</b> 乗法の意味を拡張して捉え、帯小数をかけることの意味や乗数が帯小数のときの立式を理解している。 <b>考</b> 帯小数をかけることの意味を、数直線図などを用いて考え、説明している。
	2 3	・ 整数×帯小数の計算の仕方を、既習の計算に帰着させて考える。	<b>知</b> 整数×帯小数の計算の仕方を理解している。 <b>考</b> 小数の仕組みに着目し、乗数が帯小数の乗法の計算の仕方を、既習の計算に帰着させて考え、説明している。
	4	・ 乗数が純小数(1より小さい小数)の場合でも、乗法の式に表すことができることを、数直線図などを用いて理解し、計算の仕方を考える。	<b>知</b> 整数×純小数の意味や計算の仕方を理解し、立式して計算することができる。 <b>主</b> 整数×帯小数の意味を説明した方法を振り返り、整数×純小数でもそれを生かそうとしている。
	5	・ 計算原理に基づいて、整数×小数を筆算で計算する。	<b>知</b> 整数×小数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 <b>主</b> 整数×小数の学習をもとに、小数×小数がどうなるかと、新しい問題を見いだしている。
2 小数×小数	6	・ 小数×小数の式表示と計算原	<b>知</b> 小数×小数の意味や計算の仕

(教 p.49~50)		理、方法を理解し、立式したり筆算で計算したりする。	<p>方や筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 数直線図や既習の整数の乗法などをもとに、小数×小数の立式をし、計算の仕方を考え、説明している。</p>
	7	・ 小数×小数の筆算の仕方をまとめる。また、0を補って正しい位取りにする処理の仕方などを理解する。	<p><b>知</b> 被乗数や乗数が1/100の位までである小数の場合について、筆算の仕方を理解し、計算できる。</p>
練習 (教 p.51)	8	・ 基本的な学習内容に習熟し、それを活用する。	<p><b>知</b> 小数の乗法の計算の仕方を理解し、計算できる。また、それを用いて問題を解決することができる。</p>
3 積の大きさ (教 p.52)	9	・ 小数をかける乗法で、乗数の大きさから積と被乗数の大小関係を判断する。	<p><b>知</b> 乗数の大きさから、積と被乗数の大小関係を判断することができる。</p> <p><b>考</b> 数直線図上の乗数の大きさに着目し、積と被乗数の大小関係を見いだしている。</p>
4 面積の公式と小数 (教 p.53)	10	・ 辺の長さが小数の場合でも、面積の求積公式が適用できることを理解する。	<p><b>知</b> 辺の長さが小数の場合でも、面積の求積公式が適用できることを理解している。</p>
5 計算のきまり (教 p.54)	11	・ 小数の場合にも、乗法の交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。	<p><b>知</b> 小数の場合にも、乗法の交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解し、それらを計算の工夫などに用いることができる。</p>
たしかめ問題 (教 p.55~56)	12	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 小数の乗法の計算の仕方を理解し、筆算で計算できる。</p> <p><b>考</b> 整数×小数の計算の仕方を乗法のきまりを使って考えている。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>
復習 (教 p.57)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

## 5 体積（教科書:p.58～72 時期:5～6 月 配時:10 時間）

### 〔単元の目標〕

体積の比べ方を考え、体積の単位と求積公式について理解し、直方体や立方体の体積を求めたり、複合図形の求積方法や体積の単位の関係を考察したりすることができる。

**知** 体積の単位「 $\text{cm}^3$ 」、「 $\text{m}^3$ 」とその関係や、直方体や立方体の求積公式について理解し、公式を用いて体積を求めることができる。

**考** 単位の考え方をういたり、図形の構成要素に着目したりして、体積の表し方や複合図形の求積方法、単位の関係について考え、説明することができる。

**主** 既習の測定の学習をもとに、体積について学習をひろげようとしたり、複合図形の体積の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I 直方体と立方体の体積 (教 p.58～66)  ＊ 体積が $12\text{cm}^3$ の立体をつくろう (教 p.61)	1 2	[アプローチ] ・ 教 p.58 をもとに、長さや面積にどのような単位があり、どのように測定したか振り返り、本単元の学習の見通しをもつ。 ・ 面積などの学習をもとに直方体や立方体のかさの比べ方を考え、1辺が1cmの立方体の数でかさを数値化する。 ・ 「体積」の用語とその意味や表し方を理解する。 ＊ 1辺が1cmの立方体を使って体積が $12\text{cm}^3$ の立体をつくり、体積の理解を深める。	<b>知</b> 体積の単位「 $\text{cm}^3$ 」の意味を理解し、体積を $\text{cm}^3$ の単位で表すことができる。 <b>考</b> 既習の面積などから類推して、単位となる大きさを決め、数値化して体積を比べる方法を考え、説明している。 <b>主</b> 面積の学習をもとに、体積も計算で求めることができないかと問題を見いだしている。
	3	・ 直方体や立方体の求積公式を理解し、公式を適用して体積を求める。	<b>知</b> 直方体や立方体の求積公式を理解し、体積を求めることができる。 <b>考</b> 単位の考え方や、図形を構成する要素に着目して、直方体や立方体の求積公式を見いだしている。
	4	・ 複合図形の体積を、直方体に分割したり、欠損部分をひいたりする考え方で求めることができる。	<b>考</b> 図形の構成の仕方に着目して複合図形の求積方法を考え、説明している。



*単位比べ (教 p.65)		<p>きる。</p> <p>* 長さ、面積、体積の単位を比べ、それぞれの単位の理解を深める。</p>	<p><b>主</b> 複合図形の体積の求め方について多面的に検討し、より問題に適した求め方をしようとしている。</p>
	5	<p>・ 直方体の縦と横の長さが一定のとき、高さと体積の変わり方を調べ、その特徴を捉える。</p>	<p><b>知</b> 縦と横の長さが一定の直方体では、体積は高さに比例することを理解している。</p> <p><b>考</b> 直方体の高さと体積の関係に着目し、表や式を用いて変化の特徴を見いだしている。</p>
2 いろいろな体積 (教 p.67～70)	6	<p>・ 大きな体積の単位として「<math>m^3</math>」があることを知り、大きな立体の体積を求める。</p>	<p><b>知</b> 体積の単位「<math>m^3</math>」の意味を理解している。</p>
	7	<p>・ <math>m^3</math>と<math>cm^3</math>の関係や、辺の長さが小数で表されているときにも体積の求積公式が適用できることを理解する。</p>	<p><b>知</b> <math>m^3</math>と<math>cm^3</math>の関係を理解している。また、辺の長さが小数の場合にも求積公式が適用できることを理解している。</p>
	8	<p>・ 1Lは、1辺が10cmの立方体の体積と等しいことを知り、<math>cm^3</math>、<math>m^3</math>、mL、Lの関係を理解する。</p>	<p><b>知</b> 「<math>cm^3</math>」、「<math>m^3</math>」、「mL」、「L」の関係を理解している。</p> <p><b>考</b> 1辺の長さに着目し、体積の単位の関係について考え、説明している。</p>
	9	<p>・ 「内のり」、「容積」の用語や容積の求め方を理解する。</p>	<p><b>知</b> 「内のり」、「容積」の用語とその意味を理解し、内のりを求めて容積を求めることができる。</p>
たしかめ問題 (教 p.71～72)	10	<p>・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p>	<p><b>知</b> 体積の単位について理解し、求積公式を用いて、体積や容積を求めることができる。</p> <p><b>考</b> 複合図形の体積の求め方を式から読み取り、図と結び付けて考えている。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

\*算数たまてばこ

## 6 小数のわり算（教科書：p.73～93 時期：6～7 月 配時：18 時間）

### 〔単元の目標〕

除法の意味を拡張し、除数が小数の場合でも除法が用いられることを理解し、小数の除法の計算の仕方を考えたり、筆算で計算したりすることができる。

**知** 小数の除法の意味や計算の仕方を理解し、筆算で計算することができる。また、商と被除数の大小関係や小数倍と基準量、比較量の関係などについて理解する。

**考** 数量の関係に着目し、整数でわる除法をもとに、小数の除法の意味や計算の仕方について考え、説明することができる。

**主** 小数の除法の意味や計算の仕方について、既習の計算や図を用いて考えようとしたり、桁数の多い計算などについて考えようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 整数÷小数 (教 p.73～78)	1	・ 除数が帯小数の場合でも、除法の式に表すことができることを、除数が整数の場合をもとに考えたり、数直線図を用いたりして理解する。	<b>知</b> 除法の意味を拡張して捉え、帯小数でわることの意味や除数が帯小数のときの立式を理解している。 <b>考</b> 帯小数でわることの意味を数直線図などを用いて考え、説明している。
	2 3	・ 整数÷帯小数の計算の仕方を、既習の計算に帰着させて考えることができる。	<b>知</b> 整数÷帯小数の計算の仕方を理解している。 <b>考</b> 小数の仕組みに着目し、除数が帯小数の除法の計算の仕方を、既習の計算に帰着させて考え、説明している。
	4	・ 除数が純小数の場合でも、除法の式に表すことができることを、数直線図などを用いて理解し、その計算の仕方を考える。	<b>知</b> 整数÷純小数の意味や計算の仕方を理解し、立式して計算することができる。 <b>主</b> 整数÷帯小数の意味を説明した方法を振り返り、整数÷純小数でもそれを生かそうとしている。
	5	・ 計算原理に基づいて、整数÷小数を筆算で計算する。	<b>知</b> 整数÷小数の筆算の仕方を理解し、計算できる。 <b>主</b> 整数÷小数の学習をもとに、小数÷小数がどうなるかと、新しい問題を見いだしている。
2 小数÷小数	6	・ 小数÷小数の式表示と計算原	<b>知</b> 小数÷小数の意味や計算の仕

(教 p.79~81)		理、方法を理解し、立式したり、筆算で計算したりする。	<p>方、筆算の仕方を理解し、計算できる。</p> <p><b>考</b> 数直線図や既習の整数の除法などをもとに、小数÷小数の立式をし、計算の仕方を考え、説明している。</p>
	7	・ 小数(1/100の位)÷小数(1/10の位)の筆算の仕方をまとめる。	<b>知</b> 小数(1/100の位)÷小数(1/10の位)の計算について、除数のみを整数になおせばよいことを理解し、筆算で計算できる。
	8	・ 小数÷小数の筆算の仕方をまとめる。	<b>知</b> 小数の除法の一般化した筆算の仕方を理解し、計算できる。
練習 (教 p.82)	9	・ 基本的な学習内容に習熟し、それを活用する。	<b>知</b> 小数の除法の計算の仕方を理解し、計算できる。また、それを用いて問題を解決することができる。
3 商の大きさ (教 p.83)	10	・ 小数でわる除法で、除数の大きさから、商と被除数の大小関係を判断する。	<p><b>知</b> 除数の大きさから、商と被除数の大小関係を判断することができる。</p> <p><b>考</b> 数直線図上の除数の大きさに着目し、商と被除数の大小関係を見いだしている。</p>
4 わり進みの計算と あまりのあるわり算 (教 p.84~86)	11	・ 小数でわる除法で、わりきれるまでわり進む筆算の仕方を理解する。	<b>知</b> 小数でわる除法で、わりきれるまでわり進む場合の筆算の仕方を理解し、計算できる。
	12	・ 小数でわる除法で、あまりの意味と大きさを理解し、商とあまりを求める。	<p><b>知</b> 小数でわる除法では、あまりの小数点は、被除数のもとの小数点にそろえてうつことを理解している。</p> <p><b>考</b> あまりの大きさを、除数とあまりの大小関係などに着目して考えている。</p>
	13	・ 小数でわる除法で、商を四捨五入して、1/10の位までの概数で求める。	<b>知</b> 小数でわる除法で、商を概数で表すことができる。
5 わり算の式 (教 p.87)	14	・ 小数の除法において、求答事項に応じて演算決定をすることで、除法の理解を深める。	<b>考</b> 数直線図などを用いて、求答事項に応じて式を考え、説明している。
6 小数倍とかけ算、	15	・ 割合を求めるときには小数の	<b>知</b> 割合を求めるときには、小数の

わり算 (教 p.88～91)		除法、比較量を求めるときには 小数の乗法が適用されること を理解する。	除法が適用され、比較量を求め るときには、小数の乗法が適用 されることを理解している。 <b>考</b> 割合を求めるときには、小数の 除法が適用されることや、比較 量を求めるときには、小数の乗 法が適用されることを数直線図 などをもとに見いだしている。
	16	・ 割合が小数のとき、基準量を 求めるときには、小数の除法が 適用されることを理解する。	<b>知</b> 基準量を求めるときに、小数の 除法が適用されることを理解し ている。 <b>考</b> 基準量を求めるときに、小数の 除法が適用されることを数直線 図などをもとに見いだしている。
	17	・ もとにする量が異なる2つの量 を比較するときには、割合を適 用して比較できることを理解す る。	<b>知</b> もとにする量が異なる2つの量 を比較するときには、割合を適 用して比較できることを理解し ている。 <b>考</b> もとにする量が異なる2つの量 を比較するときには、割合が適 用できることを数直線図などを もとに見いだしている。
たしかめ問題 (教 p.92～93)	18	・ 基本的な学習内容を理解して いるか確認し、それに習熟す る。	<b>知</b> 小数でわる除法の計算の仕方 を理解し、筆算で計算できる。 <b>考</b> 小数でわる除法の計算の仕方 を除法のきまりを使って説明して いる。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったこ とや、大切な考え方、今後の学 習に生かせることなどを振り返 っている。
プログラミングに ちょうせん!① (教 p.94～95)  * 身の回りの プログラミング	-	・ 除数が小数である場合の筆算 の手順について、除数が整数 である場合をもとにして、アル ゴリズムを整理する。 * 生活の中でプログラムが使わ れている場面を知り、興味・関 心を高める。	<b>考</b> 除数が小数のわり算の筆算の 手順について、除数が整数であ る場合をもとに、アルゴリズムを 考え、説明している。 <b>主</b> 物事の手順を分かりやすく整理 したアルゴリズムのよさに気づ いている。

## 7 合同な図形 (教科書:p.96~106 時期:7月 配時:7時間)

### 〔単元の目標〕

合同の意味や合同な図形の性質について理解し、合同な図形のかき方を考えることができる。また、対角線によってできる三角形についての考察を通して、平面図形の理解を深める。

**知** 合同の意味や合同な図形の性質を理解し、合同な図形を弁別したり、合同な三角形や四角形をかいいたりすることができる。

**考** 対応する辺や角に着目し、合同な図形のかき方を考え、説明することができる。

**主** 合同な図形のかき方を多様に考えようとしたり、自分の方法を見直して、よりよい方法を追求しようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 合同な図形 (教 p.96~100)	1	<b>〔アプローチ〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>錯視の関係になっている2つの図形の面の形や大きさが等しいことから、見た目では等しいか分からないものでも、重ね合わせれば分かることを確認し、本単元の見通しをもつ。</li> <li>2つの図形を重ね合わせる活動を通して、合同の意味を理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 図形の合同の意味を理解している。 <b>主</b> 図形を進んでかき、形と大きさが同じ図形について、ぴったり重ね合わせることでできる図形はどれか調べようとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同な図形の対応する辺の長さや角の大きさは等しいことを理解する。</li> <li>角の大きさだけが等しくても合同といえないことを説明する。</li> </ul>	<b>知</b> 合同な図形の対応する辺の長さや角の大きさは等しいことを理解している。 <b>考</b> 図形の構成要素に着目し、角の大きさだけが等しくなっている2つの図形は合同といえないことを説明している。
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形やひし形に対角線をひいてできる三角形について、合同であることを調べて、確かめる。</li> </ul>	<b>知</b> 平行四辺形やひし形に対角線をひいてできる三角形が合同であることを理解する。
2 合同な図形のかき方 (教 p.101~104)	4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応する辺の長さや角の大きさがそれぞれ等しいことを用いて、合同な三角形を作図する方法を考え、説明する。</li> </ul>	<b>考</b> 図形の構成要素に着目し、合同な三角形のかき方を考え、説明している。 <b>主</b> 合同な三角形のかき方を多様

			に考えようとしたり、自分のかき方を見直して、よりよい方法を追求しようとしたりしている。
	6	・ どの辺の長さや角の大きさをはかればよいかを考えて、合同な四角形をかく。	<p><b>考</b> 合同な三角形のかき方をもとに、合同な四角形のかき方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 合同な三角形のかき方を振り返り、合同な四角形のかき方に生かそうとしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.105～106)	7	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 合同な三角形を作図するための条件を理解し、作図することができる。また、合同な図形を弁別することができる。</p> <p><b>考</b> 合同な図形の性質に着目し、未知の角の大きさの求め方を見いだしている。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

*どんな計算するのかな (教 p.107)	1	* 問題場面を捉え、対応する数直線図を選び、演算決定する。	<p><b>知</b> 数直線図の読み取り方を理解している。</p> <p><b>考</b> 問題場面と数直線図を結び付け、演算決定している。</p>
復習 (教 p.108)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

\*算数たまたばこ

## 8 整数の性質 (教科書:p.109~120 時期:9月 配時:8時間)

### 〔単元の目標〕

乗法や除法に着目して整数を考察し、偶数、奇数、倍数、約数などの意味や求め方について理解し、整数の性質について理解を深める。

**知** 偶数、奇数、倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数の意味や求め方を理解し、弁別したり、求めたりすることができる。

**考** 乗法や除法に着目し、整数を分類した集まりの中に共通の特徴を見いだすことができる。また、倍数や約数を問題解決に活用することができる。

**主** 公倍数や公約数の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとする。また、あまりに着目して整数を類別することや、倍数や約数のよさに気づき、生活に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 偶数と奇数 (教 p.109~110)	1	・ 整数を偶数と奇数に類別することができ、それぞれの用語とそれらの意味を理解する。	<b>知</b> 「偶数」、「奇数」の用語とそれらの意味を理解し、整数を偶数と奇数に類別することができる。 <b>考</b> 乗法や除法に着目し、2つに分類した数の集まりの中から共通の性質を見いだしている。
2 倍数と公倍数 (教 p.111~114)	2	・ 「倍数」、「公倍数」、「最小公倍数」の用語とそれらの意味や求め方を理解し、求める。	<b>知</b> 「倍数」、「公倍数」、「最小公倍数」の用語とそれらの意味や求め方を理解し、求めることができる。
	3	・ 公倍数を見つける活動を通して、公倍数を手際よく求める。	<b>知</b> 公倍数や最小公倍数を求めることができる。 <b>主</b> 公倍数の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしている。
	4	・ 公倍数の考え方を活用して、問題を解決する。	<b>考</b> 最小公倍数を求めることによって、問題を解決できることを見いだしている。
3 約数と公約数 (教 p.115~118)	5	・ 「約数」、「公約数」、「最大公約数」の用語とそれらの意味や求め方を理解し、求める。	<b>知</b> 「約数」、「公約数」、「最大公約数」の用語とそれらの意味や求め方を理解し、求めることができる。
	6	・ 公約数を見つける活動を通して、公約数を手際よく求める。	<b>知</b> 公約数や最大公約数を求めることができる。 <b>主</b> 公約数の求め方について、多面

			的に考え、よりよい方法を追求しようとしている。
	7	・ 公約数の考え方を活用して、問題を解決する。	<b>考</b> 最大公約数を求めることによって、問題を解決できることを見いだしている。
たしかめ問題 (教 p.119~120)	8	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 偶数、奇数を類別したり、倍数、約数などを求めたりすることができる。 <b>考</b> あまりに着目し、整数の類別の仕方を見いだしている。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
読み取る力をのばそう (教 p.121)	1	・ ゲームを通して、乗法九九の答えになる数の約数について考え、整数の性質についての理解を深める。	<b>考</b> ゲームのルールを理解し、有利になる数を、乗法の式や約数の個数に着目して考え、説明している。



## 9 分数のたし算とひき算 (教科書:p.122~133 時期:9月 配時:9時間)

### 〔単元の目標〕

分数の意味や表し方について理解を深めるとともに、通分、約分の方法を理解し、それをもとに異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、計算をすることができる。

**知** 通分、約分の意味や方法を理解し、通分や約分をすることができる。また、それらを用いて異分母分数の加法及び減法の計算をすることができる。

**考** 分数の性質に着目し、異分母分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、説明することができる。

**主** 通分や約分の仕方、加法、減法の計算の仕方を多面的に考え、既習事項をもとに考えようとしたり、よりよい方法を追求しようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
Ⅰ 分数の大きさ (教 p.122~128)	1	〔アプローチ〕 ・ 分数の大きさ比べをする中で、分子も分母も異なる分数の大きさの比べ方に興味をもつ。	<b>考</b> 分数の意味に着目したり、数直線や図を用いたりして、分数の大きさの比べ方を見いだしている。
		・ 分子も分母も違う分数の大きさを数直線や図を使って比べる。	<b>主</b> 分数の大きさ比べの場面から、異分母分数の大きさを比べる問題を見いだしている。
	2	・ 大きさの等しい分数の分母どうし、分子どうしの関係を理解する。	<b>知</b> 分数は、分母と分子に同じ数をかけても、分母と分子を同じ数でわっても、大きさは変わらないことを理解している。 <b>考</b> 大きさの等しい分数の性質を、いくつかの例から帰納的に見いだしている。
	3	・ 通分して分数の大きさを比べる。	<b>知</b> 「通分」の用語とその意味や方法を理解し、通分したり、分数の大きさを比べたりすることができる。
	4	・ 通分する際は、分母の最小公倍数にそろえると、簡単で分かりやすい分数になることに気づく。	<b>知</b> 最小公倍数にそろえる通分の仕方や、3口の分数の通分の仕方を理解し、通分することができる。 <b>主</b> 通分の仕方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしている。
	5	・ 「約分」の用語とその意味や方	<b>知</b> 「約分」の用語とその意味や方

		法を理解する。	法を理解し、約分することができる。
2 分数のたし算とひき算 (教 p.129~131)	6	・ 異分母分数の加法、減法の計算原理や方法を理解し、立式して計算する。	<b>知</b> 異分母分数の加法、減法の計算の仕方を理解し、計算できる。 <b>考</b> 異分母分数の加法、減法の計算の仕方について、通分すれば計算できることを見だし、説明している。
	7	・ 答えが約分できる加法、減法の計算や、3 口の分数の加法、減法の計算をする。	<b>知</b> 答えを約分すると大きさが分かりやすくなることや 3 口の加法、減法の計算の仕方を理解し、計算できる。
	8	・ 帯分数の加法、減法の計算の仕方を考え、計算する。	<b>知</b> 帯分数の加法、減法の計算の仕方を理解し、計算できる。
たしかめ問題 (教 p.132~133)	9	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 分数の約分、通分や、加法、減法の計算ができる。 <b>考</b> 分数の意味や単位に着目して、異分母分数の計算の仕方を説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

# 10 平均 (教科書:p.134~141 時期:9~10月 配時:6時間)

## 〔単元の目標〕

平均の意味や求め方を理解し、平均を求めたり、平均を活用して問題を解決したりすることができる。

**知** ならすことでより妥当な数値が得られる場合は平均を求めるとよいことや、「平均」の用語とその意味や求め方を理解し、いろいろな場面について平均を求めることができる。

**考** 平均の求め方を図や式を用いて考え、説明したり、平均を活用して問題を解決したりすることができる。

**主** 平均や歩幅を用いるよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
I 平均 (教 p.134~140)	1	<b>〔アプローチ〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教 p.134 の場面をもとに、「ならす」ということの意味を理解し、ならした大きさの求め方に対する興味・関心を高め、本単元の見通しをもつ。</li> <li>・ ならした大きさの求め方を考え、「平均」の用語とその意味や求め方を理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 「平均」の用語とその意味や求め方を理解している。 <b>考</b> 平均の求め方を図や式に表して考え、説明している。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料の中に0がある場合の平均の求め方や、平均では人数や個数なども小数で表せることについて理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 資料の中に0がある場合の平均の求め方や、平均では人数や個数なども小数で表せることを理解している。 <b>考</b> 平均の意味に着目して、資料の中に0がある場合の0の処理の仕方を考えている。
＊仮の平均 (教 p.138) ＊ 目的にあった平均の求め方 (教 p.138)	3	＊ 仮の平均を定めて、平均を求める方法を理解する。 ＊ 外れ値がある場合の平均の考え方や、端数の処理について理解する。	<b>知</b> 仮の平均を使って平均を求めることや、外れ値を除外して平均を求めることを理解している。
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均を使って、合計の大きさを求めたり、全体の量を推定したりする方法を理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 平均を使って、合計の大きさを求めたり、全体の量を推定したりする方法を理解し、求めることができる。 <b>考</b> 平均を活用して、問題を解決する方法を見いだしている。
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均を用いて歩幅を求める。ま</li> </ul>	<b>知</b> 平均を用いて歩幅を求めること

		た、歩幅を使っていろいろな場所のおよその長さを概測する。	<p>ができ、歩幅と歩数から長さを概測することができる。</p> <p><b>主</b> 歩幅を使っていろいろな長さの概測ができることのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.141)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 平均を求めることができる。また、それを活用して問題を解決することができる。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

\*算数たまたばこ

# 11 単位量あたりの大きさ（教科書:p.142～151 時期:10月 配時:5時間）

## 〔単元の目標〕

混み具合などの比べ方を考え、単位量あたりの大きさの意味や表し方を理解し、それを用いることができる。

**知** 「単位量あたりの大きさ」の用語とその意味及び表し方を理解し、いろいろな単位量あたりの大きさを求めて比べることができる。

**考** 混み具合などについて、1つの量だけでは比べられないことに着目し、一方の量をそろえてもう一方の量で比較することを見いだすことができる。

**主** 混み具合の比べ方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとする。また、単位量あたりの大きさを考えるよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 単位量あたりの大きさ (教 p.142～148)	1	〔アプローチ〕	<b>考</b> 単位量あたりの考え方をういて、混み具合の比べ方を考え、説明している。 <b>主</b> 混み具合の比べ方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.142 の場面を見て、㊸と㊹では鉛筆の本数、㊺と㊻ではページ数がそろっているから比べられることを確認し、㊼と㊽では、面積も人数も違うことから、混み具合は面積と人数の関係で決まることに気づき、混み具合の比べ方に興味・関心をもつ。</li> <li>人数と面積を用いて、混み具合の比べ方を考え、単位量あたりの考え方や用い方を理解する。</li> </ul>	
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな1あたりの大きさを求めることを通して、「単位量あたりの大きさ」の用語とその意味を理解する。また、単位量あたりの大きさを利用し、問題を解決する。</li> </ul>	<b>知</b> 「単位量あたりの大きさ」の用語とその意味を理解し、いろいろな単位量あたりの大きさを求めて比べたり、問題を解決したりすることができる。 <b>主</b> 単位量あたりの大きさを考えるよさに気づき、生活に生かそうとしている。
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人口密度」の用語と、その意味、求め方を理解し、人口の混み具合を比べる。</li> </ul>	<b>知</b> 「人口密度」の用語とその意味を理解し、人口密度を計算により求め、比べることができる。
たしかめ問題	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を理解して</li> </ul>	<b>知</b> 単位量あたりの大きさの意味と

(教 p.149~151)  ＊ 単位量あたりの 大きさをさがそう (教 p.150)		いるか確認し、それに習熟する。  ＊ 日常生活に用いられている単位量あたりの大きさを見つけ、その意味について理解する。	求め方、比べ方を理解している。 <b>考</b> 混み具合を比べる式について、その意味や計算によって得られた数値の意味を考え、説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
---	--	---	---

ふくろう先生の なるほど算数教室2 (教 p.152)	-	・ 単位量あたりの大きさを活用して、防災備蓄用品の量について考える。	<b>主</b> 単位量あたりの大きさの考え方を使えば、防災用品の必要数などが分かるというよさに気づいている。
復習 (教 p.153)	-	・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。	-

\*算数たまたばこ

## 12 分数と小数、整数 (教科書:p.154~163 時期:10月 配時:7時間)

### 〔単元の目標〕

整数の除法の商を分数を用いて表す方法を考えることを通して、分数と小数、分数と整数の相互の関係を理解する。また、小数と分数が混じった加法、減法の計算をしたり、分数を用いて倍を表したりすることができる。

**知** 分数を用いた整数の除法の商の表し方を理解し、分数と小数、整数を相互に変換したり、小数と分数が混じった加法、減法の計算をしたりすることができる。

**考** 分数の意味に着目し、整数の除法の商の表し方を考えたり、それを活用して、分数と小数、整数を相互に変換したり、小数と分数が混じった加法、減法の計算の仕方を考え、説明したりすることができる。

**主** 除法の商を分数で表すことができるよさに気づき、学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 わり算と分数 (教 p.154~157)	1	〔アプローチ〕	<b>知</b> 整数の除法の商は分数を用いて表すことができることを理解している。 <b>考</b> 整数の除法の商を分数で表す方法について、分数の意味に着目し、図を用いるなどして考え、説明している。 <b>主</b> 商が整数や小数では表せない整数の除法の場面から問題を見いだしている。
	2	・ 2、3、4の数字を使っていろいろな除法の式を考える中で、小数で表せない商の存在に気づき、整数どうしの除法の商の表し方に興味をもつ。 ・ 整数の除法の商は分数で表すことができることを理解する。 ＊ これまでに学習した分数の意味(分割分数、量分数、商分数)について振り返る。	
＊ 分数の意味を ふりかえろう (教 p.157)			
2 分数倍 (教 p.158)	3	・ 分数を用いて何倍かを表すことができる。	<b>知</b> 割合を分数を用いて表すことができる。
3 分数と小数、整数 (教 p.159~161)	4	・ $\bigcirc/\Delta=\bigcirc\div\Delta$ の関係を使って、いろいろな分数を小数で表す方法を理解する。また、分数には小数で正確に表すことができないものがあることを理解する。	<b>知</b> 分数を小数で表す方法を理解し、表すことができる。 <b>考</b> $\bigcirc/\Delta=\bigcirc\div\Delta$ の関係を活用すれば、分数を小数で表すことができることを見いだしている。
	5	・ 小数や整数はどんな数でも分数で表すことができることを理解する。	<b>知</b> 小数や整数はどんな数でも分数で表すことができることを理解し、小数や整数を分数で表すことができる。
	6	・ 分数と小数が混じった加法や減法の計算の仕方を考える。	<b>知</b> 分数と小数が混じった加法、減法の計算の仕方を理解し、計算できる。

			<p><b>考</b> 分数と小数の相互関係に着目し、分数と小数が混じった計算では、分数か小数のどちらかにそろえればよいことを見いだしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.162～163)	7	<p>・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p>	<p><b>知</b> 整数の除法の商を分数を用いて表したり、割合を分数で表したりすることができる。また、分数と小数が混じった加法、減法の計算ができる。</p> <p><b>考</b> 整数の除法の商を分数で表す方法について、図を用いて考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

\*算数たまたばこ



## 13 割合 (教科書:p.164~179 時期:10~11月 配時:10時間)

### 〔単元の目標〕

割合、百分率の意味を理解し、それらを用いて、2つの数量の関係と別の数量の関係を比べたり、比較量や基準量を求めたりすることができる。

**知** 割合を百分率や歩合で表す方法を理解し、割合を求めたり、比較量や基準量を求めたりすることができる。

**考** 数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べ方を考えることができる。また、割合、比較量、基準量の関係に着目し、問題解決の方法を見いだすことができる。

**主** 百分率や歩合のよさに気づき、身の回りから割合が使われている場面を見いだすなど、割合を生活や学習に生かそうとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 割合と百分率 (教 p.164~170)	1	〔アプローチ〕	<b>知</b> 割合を用いた2つの数量の関係どうしの比べ方を理解している。 <b>考</b> 全体と部分の関係に着目し、数量の関係どうしの比べ方を見いだしている。
	2	・ 教 p.164 の2つの場面を見て、倍(割合)を使って数量関係が比べられたことを振り返る。 ・ 2つの数量の関係どうしを比べる場合に割合を用いる場合があることを理解し、割合を小数で求める。	
	3	・ 「パーセント(%)」、「百分率」の用語や意味を理解し、割合を百分率で表す。 * 日常生活の様々な場面で%が使われていることを知り、百分率についての興味・関心を高める。	<b>知</b> 「パーセント(%)」、「百分率」の用語とその意味、表し方を理解し、割合を求め、百分率で表すことができる。 <b>主</b> 割合を百分率で表すよさに気づいている。
* 身の回りから %をさがそう (教 p.169)	4	・ 割合が1より大きい場合に、その割合を百分率で表す。	<b>知</b> 割合が1より大きくなる場合について理解し、その割合を求め、百分率で表すことができる。
2 割合の使い方 (教 p.171~176)	5	・ 比較量は、「基準量×割合」で求められることを理解する。	<b>知</b> 比較量は、基準量×割合で求められることを理解し、求めることができる。 <b>考</b> 割合、比較量、基準量の関係に着目し、比較量の求め方を考

* 式に表してみよう (教 p.174)			え、説明している。 <b>主</b> 身の回りで割合が使われている場面から、割合についての問題を見いだしている。
	6	・ 比較量と割合から、基準量を求める方法を理解する。 * 割合、比較量、基準量のそれぞれを求める式を比べ、数量関係の理解を深める。	<b>知</b> 比較量と割合から、基準量を求める方法を理解し、求めることができる。 <b>考</b> 割合、比較量、基準量の関係に着目し、基準量の求め方を考え、説明している。
	7	・ 比較量の割合がどれだけになるかを求めるなどして、基準量とその割合から比較量を求める。	<b>知</b> 比較量の割合を求め、基準量とその割合から、比較量を求める方法を理解している。 <b>考</b> 割合、比較量、基準量の関係に着目し、問題解決の方法を見いだしている。
	8	・ 比較量の割合がどれだけになるかを求め、比較量とその割合から基準量を求める。	<b>知</b> 比較量の割合を求め、比較量とその割合から、基準量を求める方法を理解している。 <b>考</b> 割合、比較量、基準量の関係に着目し、問題解決の方法を見いだしている。
3 歩合 (教 p.177) * 割、分、厘 (教 p.177)	9	・ 歩合の意味とその表し方を理解し、割合を歩合で表す。 * 1割の他に、1分や1厘という表し方を知り、歩合についての理解を深める。	<b>知</b> 割合を歩合で表すことができる。 <b>主</b> 歩合のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
たしかめ問題 (教 p.178~179)	10	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 割合を百分率で表したり、割合、比較量、基準量を求めたりすることができる。 <b>考</b> 言葉や式などを用いて、割合を用いた比べ方を説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。
読み取る力をのばそう (教 p.180)	1	・ 値引きの割合を一定としたとき、定価の変化にともなって、値	<b>考</b> 割合が一定のとき、基準量の変化にともなって比較量に変化す

		引き額が変化していくことを理解し、それを活用しながら買い物の仕方を考える。	<p>ることに着目して買い物の仕方を考えている。</p> <p><b>主</b> 割合の考え方が、日常生活に用いられていることに気づき、割合を生活に生かそうとしている。</p>
--	--	---------------------------------------	--

\*算数たまたばこ

## 14 帯グラフと円グラフ (教科書:p.181~196 時期:11月 配時:6時間)

### 〔単元の目標〕

帯グラフや円グラフの特徴とそれらの使い方を理解し、一連の統計的な問題解決の方法を理解し、結論について多面的な考察を行うことができる。

**知** 帯グラフや円グラフの特徴とそれらの読み方や表し方を理解するとともに、資料の収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を理解する。

**考** 資料の特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択したり判断したりすることができる。また、資料を分析して導き出された結論について、批判的に考察することができる。

**主** 統計的な問題解決のよさや、帯グラフや円グラフのよさに気づき、生活や学習に生かそうとする。また、身の回りの事象から問題を見だし、その問題を解決するためにグラフに表し追求しようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 帯グラフと円グラフ (教 p.181~187)	1	<b>〔アプローチ〕</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.181 のリクエスト給食を決める場面から、アンケート結果を見て、カレーライスを好きな人の割合について興味をもち、棒グラフでは割合が表せないことに気づき、本単元の見通しをもつ。</li> <li>帯グラフと円グラフの意味とそれぞれの特徴を理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 帯グラフや円グラフの特徴や読み方を理解し、全体と部分、部分と部分の関係を読み取ることができる。 <b>主</b> 帯グラフと円グラフのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>並んだ帯グラフの特徴を理解する。</li> </ul>	<b>知</b> 割合が比較しやすくなるグラフとして、並んだ帯グラフの特徴を理解している。 <b>考</b> 資料の合計と割合に着目し、導き出された結論について、批判的に考察している。
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>帯グラフと円グラフの表し方を理解し、資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表す。</li> </ul>	<b>知</b> 帯グラフと円グラフの表し方を理解し、資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表すことができる。
2 グラフの選び方 (教 p.188~191)	4 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べる目的に応じて、グラフを選択し、つくり替えて、資料の特徴を考察する。</li> </ul>	<b>考</b> 既習のグラフの特徴を吟味しながら、グラフを選択し、多面的な視点で資料の特徴について考察している。 <b>主</b> グラフの読み取りを通して、問い

			を見だし、その問いを解決するために新たなグラフをつくって追求しようとしている。
表やグラフを生かそう (教 p.192~193)	-	・ 資料を収集、分類整理し、結果を適切に表現し、分析する。	<p><b>知</b> 資料の収集や適切な手法の選択など、統計的な問題解決の方法を理解している。</p> <p><b>主</b> 統計的な問題解決の方法のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。</p>
たしかめ問題 (教 p.194~196)	6	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<p><b>知</b> 帯グラフの読み方を理解している。また、資料を円グラフに表すことができる。</p> <p><b>考</b> グラフの特徴に着目し、目的に合わせて適切なグラフを考え、選択することができる。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>
読み取る力をのばそう (教 p.197)	1	・ 示された考えを批判的にみて、正否を判断し、説明する。また、示された条件に合わせて価格を求める。	<p><b>考</b> 問題を解決するために、それぞれのお店が何円引きになるかを求める必要性があることを見だしている。</p> <p><b>主</b> 示された考えを批判的に考察し、矛盾点を主体的に見いだそうとしている。</p>

## 15 正多角形と円 (教科書:p.198~211 時期:11~12月 配時:9時間)

### 〔単元の目標〕

図形の構成要素に着目して正多角形の特徴を見だし、それをもとに正多角形をかくことができる。また、円周と直径の長さの関係を考察し、円周率の意味や円周の長さの求め方について理解する。

**知** 正多角形の定義を理解し、円を用いて正多角形をかくことができる。また、円周率の意味を理解し、円周の長さを公式を用いて求めることができる。

**考** 辺の長さや角の大きさなどに着目して、正多角形の特徴や作図の仕方を見いだすことができる。また、直径と円周の長さの関係を帰納的に見いだしたり、それを用いて問題を解決したりすることができる。

**主** 正多角形や円のもつ対称性や美しさに気づき、それらの特徴について追求しようとしている。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 正多角形 (教 p.198~202)	1	〔アプローチ〕 ・ 正多角形のもつ「対称性」や「美しさ」を感じ、正多角形と円とのつながりに気づく。	<b>知</b> 正多角形の定義を理解している。
		・ 正六角形や正八角形を作る活動を通して、「正多角形」の用語とその定義について理解する。	<b>考</b> 図形の構成要素に着目し、正多角形の特徴を見いだしている。 <b>主</b> 正多角形や円のもつ対称性や美しさに気づき、それらの特徴について追求しようとしている。
	2	・ 円を用いた正多角形のかき方を理解し、正多角形の理解を深める。	<b>知</b> 正多角形の定義や性質を用いて、正多角形を作図することができる。 <b>考</b> 正多角形の定義や性質に着目し、円と組み合わせ作図の仕方を見いだしている。
2 円周と直径 (教 p.203~209)	3	・ 円を用いた正六角形のかき方を理解し、正多角形の理解を深める。	<b>知</b> 正六角形の定義や性質を用いた作図の仕方を理解している。 <b>考</b> 正六角形の定義や性質に着目し、コンパスで作図できるわけを筋道立てて説明している。
	4	・ 円の周りの長さは、直径の長さの約何倍になっているかを調べる。また、「円周」の用語とその意味について理解する。	<b>知</b> 「円周」の用語とその意味を理解している。 <b>考</b> 円の半径などに着目し、円周の長さが直径の長さの約何倍になっているかを図を用いて説明している。
	5	・ 円周の長さは、直径の長さの	<b>知</b> どの円についても円周÷直径の

*1m 外側の円周 (教 p.207)		約何倍になっているかを実測して調べ、「円周率」の用語とその意味を理解する。	<p>値は一定であり、その値を「円周率」ということを理解している。</p> <p><b>考</b> 身の回りの円形の物の直径と円周を調べて、帰納的に円周が直径の約 3.1 倍であることを見いだしている。</p>
	6	<p>・ 円周と直径の関係を公式にまとめ、それを適用できる。</p> <p>* 1m 外側の周りの長さを求めることで、周りの長さの増え方に興味・関心をもつ。</p>	<p><b>知</b> 円周の長さを求める公式について理解し、円周の長さを求めたり、直径の長さを求めたりすることができる。</p>
	7	<p>・ 円の直径の長さや円周の長さの変わり方を調べ、その2つの数量が比例していることを理解する。</p>	<p><b>知</b> 円周の長さは直径の長さに比例していることを理解し、それを用いて円周の長さを求めることができる。</p> <p><b>考</b> 円の直径の長さや円周の長さの変わり方を表や式から考え、比例関係があることを見いだしている。</p>
	8	<p>・ 大きな円の円周の長さやその直径上につくったいくつかの円の円周の長さの和を比べることにより、円周と直径の関係について理解を深める。</p>	<p><b>考</b> 2つの式を比べて、それらが等しくなることを説明している。</p> <p><b>主</b> 2つの円周の長さが等しくなる面白さに気づき、形を変えても同じことがいえるだろうかと学習をひろげている。</p>
たしかめ問題 (教 p.210~211)	9	<p>・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</p>	<p><b>知</b> 「正多角形」、「円周率」の意味や、円周の長さを求める公式を理解し、円周の長さや直径の長さを求めることができる。</p> <p><b>考</b> 正多角形の角の大きさの求め方を、正多角形が合同な二等辺三角形で構成されていることをもとに説明している。</p> <p><b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。</p>

プログラミングに ちょうせん!② (教 p.212~213) * 身の回りの プログラミング	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正多角形の定義をもとにして、正多角形をかくプログラムを考え、作図する。</li> </ul> <p>* 生活の中でプログラムが使われている場面を知り、興味・関心を高める。</p>	<p><b>考</b> 正多角形の定義をもとに、作図する方法を考え、その手順をプログラムに表し、説明している。</p> <p><b>主</b> 手作業では難しい作図も、簡単かつ正確に行えるプログラムのよさに気づいている。</p>
復習 (教 p.214)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。</li> </ul>	-
ふくろう先生の なるほど算数教室3 (教 p.215)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 円周率についての歴史を知ることを通して、円周率に対する興味・関心を高める。</li> </ul>	<p><b>主</b> 円周率の歴史に興味・関心を持ち、進んで理解を深めようとしている。</p>
ふくろう先生の なるほど算数教室4 (教 p.216~217)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 和算家について知ること、日本にも優れた数学者がいたこと、『塵劫記』が江戸時代の寺子屋で広く使用されていたことなどを知る。また、算額などの日本の数学の歴史に触れ、和算に興味・関心をもつ。</li> </ul>	<p><b>主</b> 和算について知り、日本での算数の歴史、発展に興味・関心をもっている。</p>

\*算数たまたばこ



## 16 四角形と三角形の面積（教科書：p.218～236 時期：1～2 月 配時：12 時間）

### 〔単元の目標〕

平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を考え、その求め方を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式を導き出してそれらの面積を求めることができる。

**知** 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解し、公式を用いて面積を求めることができる。

**考** 既習の図形の面積の求め方をもとにして、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を工夫して考えるとともに、その求め方を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、求積公式を導くことができる。

**主** 求積が未習の図形の求積方法について考えようとするとともに、その方法について、既習事項を用いて考えようとする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
Ⅰ 平行四辺形の面積 (教 p.218～224)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.218 の6つの図形を、面積の求め方を学習した図形と学習していない図形に分類し、本単元の学習の見通しをもつ。</li> <li>平行四辺形の面積は長方形に等積変形して、既習の求積公式を用いれば求められることを理解する。</li> </ul>	<p><b>考</b> 既習の長方形の面積の求め方をもとにして、平行四辺形の面積の求め方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 面積の求め方を学習した図形を振り返り、平行四辺形などの面積も求めることができないかと、問題を見いだしている。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形に関する「底辺」、「高さ」の用語とそれらの意味を理解し、それらを用いて求積公式をまとめ、面積を求める。</li> </ul>	<p><b>知</b> 平行四辺形の「底辺」、「高さ」の用語とそれらの意味や、求積公式を理解し、公式を適用して面積を求めることができる。</p> <p><b>考</b> 平行四辺形の面積の求め方を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、求積公式を導いている。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>平行四辺形の高さが、底辺の延長線上にあるときも、「底辺×高さ」で面積が求められることを理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 平行四辺形の高さが底辺の延長線上にある場合も求積公式が適用できることを理解し、求めることができる。</p> <p><b>考</b> 既習の平行四辺形の面積の求め方をもとにして、高さが底辺の延長線上にある場合の面積の求め方を考え、説明している。</p>

	4	・ 底辺の長さが一定の平行四辺形の、高さと面積の変わり方を調べ、考察する。	<p><b>知</b> 平行四辺形の底辺、高さと面積の関係を、式や表を用いて調べることができる。</p> <p><b>考</b> 底辺の長さが一定の平行四辺形の高さと面積の変わり方を表や式から考え、比例関係があることを見いだしている。</p>
2 三角形の面積 (教 p.225~229)	5	・ 三角形の面積は、倍積変形や等積変形して既習の求積公式を適用すれば求められることを理解する。	<p><b>考</b> 既習の長方形や平行四辺形の面積の求め方をもとにして、三角形の面積の求め方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 平行四辺形の面積を求めたことを振り返り、三角形も面積を求めることができないかと、新しい問題を見いだしている。</p>
	6	・ 三角形の「底辺」、「高さ」の用語とそれらの意味を理解し、三角形の面積を求める考え方をもとに求積公式をまとめ、面積を求める。	<p><b>知</b> 三角形の「底辺」、「高さ」の用語とそれらの意味や、求積公式を理解し、公式を適用して面積を求めることができる。</p> <p><b>考</b> 三角形の面積の求め方を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、求積公式を導いている。</p>
	7	・ 三角形の高さが、底辺の延長線上にあるときも、「底辺×高さ÷2」で面積が求められることを理解する。	<p><b>知</b> 三角形の高さが底辺の延長線上にある場合も求積公式が適用できることを理解し、求めることができる。</p> <p><b>考</b> 既習の三角形の面積の求め方をもとにして、高さが底辺の延長線上にある場合の面積の求め方を考え、説明している。</p>
3 いろいろな 四角形の面積 (教 p.230~233)	8	・ 台形の面積を倍積変形、等積変形したり、三角形に分割したりして既習の求積公式を用いれば求められることを理解する。	<p><b>考</b> 既習の図形の面積の求め方をもとにして、台形の面積の求め方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 平行四辺形や三角形の面積を既習の図形に帰着させて求めたことを振り返り、台形の面積でもその方法を用いて考えようとしている。</p>
	9	・ 台形の「上底」、「下底」、「高	<p><b>知</b> 台形の「上底」、「下底」、「高</p>

* 面積をくふうして 求めよう (教 p.233)		さ」の用語とそれらの意味を理解し、台形の面積を求める考え方をもとに求積公式をまとめ、面積を求める。	さ」の用語とそれらの意味や、求積公式を理解し、公式を適用して面積を求めることができる。 <b>考</b> 台形の面積の求め方を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、求積公式を導いている。
	10	・ ひし形の面積を、既習の求積公式を適用するなど、工夫して求める。 * 平行四辺形や長方形の中に空白部分がある場合について、工夫して面積を求める。	<b>知</b> ひし形の求積公式を理解し、面積を求めることができる。 <b>考</b> ひし形を求積できる図形に変えるなど、工夫して面積の求め方を考えている。
4 面積の求め方の くふう (教 p.234)	11	・ 一般四角形や五角形の面積を、既習の求積公式を適用するなど工夫して求める。	<b>知</b> 一般四角形や五角形の面積を求めることができる。 <b>考</b> 一般四角形や五角形を求積できる図形に変えるなど、工夫して面積の求め方を考えている。
たしかめ問題 (教 p.235~236)	12	・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	<b>知</b> 平行四辺形、三角形、台形、ひし形の面積の求め方を理解し、求積公式を用いて面積を求めることができる。 <b>考</b> 求積できる既習の図形を考え、形を変えて面積が求められることを、図などを用いて説明している。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

読み取る力をのばそう (教 p.237)	1	・ 長方形、平行四辺形の内部に点をとり、各頂点と結んだときにできる三角形のうち、向かい合った2つの面積の和が、もとの図形の面積の半分であることを説明する。	<b>考</b> 長方形の中にできた2つの三角形の面積の和が、長方形の面積の半分であることを、図形の合同や、求積公式に着目して説明している。 <b>主</b> 長方形でいえることが平行四辺形でも同様にいえるかなど、新しい問題を見いだしている。
-------------------------	---	---	--

\*算数たまてばこ



## 17 速さ (教科書:p.238~247 時期:2月 配時:6時間)

### 〔単元の目標〕

速さの比べ方を考え、速さの意味をもとにして道のりや時間を求める式を導き、それぞれを求めることができる。

**知** 速さの意味や表し方、及び速さ、道のり、時間の求め方を理解し、計算で求めることができる。

**考** 速さを比べるのに、時間を一定にしたり、道のりを一定にしたりして考え、説明することができる。また、速さの意味や数直線図をもとにして、道のりや時間を求める式を考え、説明することができる。

**主** 速さの比べ方について、単位量あたりの大きさの学習を生かして考えようとする。また、身の回りから速さが用いられている場面を見つけるなど、速さの表し方や道のりの求め方などを生活や学習に生かそうとしている。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 速さ (教 p.238~245)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教 p.238 の場面をもとに、速さは時間と道のりで決まることに気づき、速さの比べ方に興味・関心をもつ。</li> <li>・ 速さは道のりと時間に関係することに気づき、単位量あたりの大きさを用いて、速さの比べ方を考える。</li> </ul>	<p><b>考</b> 道のりと時間の関係に着目し、単位量あたりの大きさの考え方をもとに、速さの比べ方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 速さの比べ方について、単位量あたりの大きさの学習を生かして考えようとしている。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 速さの意味や表し方、求め方を理解するとともに、速さの表し方には、「時速」、「分速」、「秒速」があることを知り、それらの意味と求め方を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 「時速」、「分速」、「秒速」の用語とそれらの意味や、求め方を理解し、道のりと時間から速さを求めることができる。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数直線図や速さの意味、「速さ＝道のり÷時間」の式をもとにして道のりを求め、道のりを求める式を導く。</li> </ul>	<p><b>知</b> 道のりは、「速さ×時間」で求められることを理解し、道のりを求めることができる。</p> <p><b>考</b> 数直線図や速さの意味などをもとにして、道のりを求める式を考え、説明している。</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数直線図や速さの意味、「道のり＝速さ×時間」の式をもとにして時間を求め、時間を求める式を導く。</li> </ul>	<p><b>知</b> 時間は、「道のり÷速さ」で求められることを理解し、時間を求めることができる。</p> <p><b>考</b> 数直線図や速さの意味、道のりを求める式などをもとにして、時間を求める式を考え、説明して</p>

* 自分の歩く速さを調べよう (教 p.245)			いる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単位が異なる場面について、「時速」、「分速」、「秒速」を相互に変換して、速さを比べる。</li> </ul> * 自分の歩く速さを調べる活動を通して、速さを実感し、速さに対する理解を深める。	<b>知</b> 「時速」、「分速」、「秒速」の関係を理解し、単位換算することができる。 <b>主</b> 速さの表し方や道のりの求め方などを生活や学習に生かそうとしている。
たしかめ問題 (教 p.246～247)	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</li> </ul>	<b>知</b> 速さや道のり、時間を求めることができ、それを用いて問題を解決することができる。 <b>考</b> 仕事の速さを比べるのに、時間を一定にしたり、仕事量を一定にしたりして考えている。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

\*算数たまたばこ

## 18 角柱と円柱（教科書:p.248～258 時期:2～3 月 配時:7 時間）

### 〔単元の目標〕

図形の構成要素に着目して立体を分類し、角柱と円柱の定義、性質を理解するとともに、それらの見取図、展開図をかくことができる。

**知** 角柱や円柱の定義、性質を理解し、見取図や展開図をかいたり、構成したりすることができる。

**考** 図形の構成要素や位置関係に着目し、立体図形を分類したり、性質を見いだしたりすることができる。

**主** 身の回りの物から立体図形を見いだして調べようとしたり、既習の図形の見方などを生かして立体の特徴や構成の仕方を考えようとしたりする。

小単元	時	学習内容	主な評価規準例
1 立体 (教 p.248～253)	1	<p>〔アプローチ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教 p.248～249 上段の写真を見て、立体に対する興味・関心をもつ。</li> <li>基本的な立体図形を、面の形や面の位置関係などに着目して分類する。</li> </ul>	<p><b>考</b> 立体図形の構成要素やその位置関係に着目し、分類の仕方を考え、説明している。</p> <p><b>主</b> 身の回りの建物などから立体図形を見だし、立体の特徴を調べようとしている。</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「角柱」、「円柱」の用語とそれらの定義や特徴を理解する。また、それらの「底面」、「側面」、「高さ」などの意味を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 「角柱」、「円柱」の用語とそれらの定義や性質、「底面」、「側面」、「高さ」の意味を理解している。</p> <p><b>考</b> 立体図形を観察し、角柱や円柱の面の形、辺や面の平行及び垂直などの特徴を見いだしている。</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>角柱の頂点、辺、面の数について調べ、表や式に表すことを通して、角柱の特徴について理解を深める。</li> </ul>	<p><b>考</b> 角柱の底面と側面に着目し、頂点、辺、面の数のきまりを見いだしている。</p>
2 見取図と展開図 (教 p.254～256)	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角柱や円柱の見取図のかき方を理解する。</li> </ul>	<p><b>知</b> 三角柱や円柱の見取図のかき方を理解し、かくことができる。</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角柱の展開図について、辺と辺、辺と面、面と面のつながりなどを読み取ったり、展開図をかいて、三角柱をつくったりする。</li> </ul>	<p><b>知</b> 立体を組み立てたときや展開したときの面や辺の位置を理解し、展開図をかくことができる。</p> <p><b>主</b> 角柱の展開図の学習をもとに円柱の展開図について、新しい問題を見いだしている。</p>

	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>円柱の展開図がどのような形になるかを理解し、側面部分の長方形の辺の長さを求めたり、工作用紙に展開図をかくて円柱をつくったりする。</li> </ul>	<b>知</b> 底面の円周の長さ、側面の横の長さが等しくなることを理解し、円柱の展開図をかくことができる。
たしかめ問題 (教 p.257～258)	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。</li> </ul>	<b>知</b> 角柱の特徴や、見取図、展開図及び構成の仕方を理解している。 <b>考</b> 図形の構成要素に着目して、角柱といえるかどうか考えている。 <b>主</b> 単元の学習で新しく分かったことや、大切な考え方、今後の学習に生かせることなどを振り返っている。

ふくろう先生の なるほど算数教室5 (教 p.259)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレットペーパーの芯を用いて、円柱の側面の展開図が平行四辺形にもなることを知り、その展開図を問題解決に活用する。</li> </ul>	<b>考</b> 芯の直径が2倍になると平行四辺形の斜辺は変わらず、底辺が2倍になることを展開図をもとに考えている。 <b>主</b> 身の回りに隠れている算数に興味・関心をもち、進んで調べようとしている。
* 変わり方を調べよう (教 p.260～261)	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2つの数量の関係を表や図を用いて調べ、それを言葉や式に表して未知の数量を求める。</li> </ul>	<b>考</b> ともなって変わる2つの数量の関係を、図や表を使って調べ、規則性を見いだしている。
ふくろう先生の なるほど算数教室6 (教 p.262～263)	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数を仕事に生かしている方へのインタビューを読み、算数への学習意欲を高める。</li> </ul>	<b>主</b> 算数が仕事や生活に生かされていることを知り、算数・数学のよさや面白さに気づいている。
5年の復習 (教 p.264～267)	1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>5学年の復習問題に取り組み、既習事項の理解を確実にする。</li> </ul>	-

\*算数たまたばこ